

川上から川下までの取組を総合的に推進してまいります。

(2) 水産業の振興

八雲町の主力であるホタテ養殖漁業は、一昨年の全道的な採苗不振により稚貝の確保ができず、令和8年シーズンの大幅な減産が見込まれているところであります。

このような状況のなか、市場でのホタテの品薄感が大きく影響し取引価格は例年にも増して高値で推移しておりますが、今後、水揚の減少が漁業経営のみならず関連する水産加工業等にもどのような影響が生じるか、予断を許さない状況であると考えております。

現在のところ、ホタテの大量へい死や生育不良などの障害は発生しておりませんが、毒性プランクトンの発生による出荷規制が長期化する傾向が見られるほか、海の温暖化が海洋生態系に大きな影響を及ぼしており、現に青森県陸奥湾ではホタテ養殖漁業が危機的な状況となっていることから、八雲地域のみならず噴火湾全体の喫緊の課題として、関係自治体をはじめ各漁業協同組合、関係機関とも緊密に連携し、ホタテ養殖漁業の安定に向けて取り組んでま

まいります。

さらに、海の温暖化の影響は秋サケの来遊にも影響しており、昨年の北海道全体の漁獲数は561万尾と記録がとれる1989年以降、初めて1千万尾を下回る歴史的な不漁となったところであります。

八雲町全体の秋サケの水揚量は、前年比20%増の35トンでありますが、依然として低位で推移していることから、さけます増殖事業協会と関係自治体、各漁業協同組合とも連携を図りながら、回帰率の向上に向けた対策等について取り組んでまいります。

漁船漁業の状況ですが、八雲地域では、ハタハタが前年比510%増の11トンと11年ぶりに10トンを超えたものの、魚類は全体的に減少しており、中でもスケトウダラは前年の5分の1と大幅に減少、コンブ、ナマコも依然として漸減傾向にあります。

熊石地域も同様に、イカやホッケ、タラのほか、タコやエビなど地域の主力魚種が大きく減少しており、熊石地域全体の漁獲量は前年比34%減の208トンとなっております。

このように漁船漁業は大変厳しい状況にあるため、引き続き関係機関と連携し、安定

生産に向けた資源管理や資源造成を進めてまいります。

次に、北海道二海サーモンプロジェクトは、熊石地域で海面養殖を担う漁業法人が設立され、昨年5月に法人として初となるサーモンの水揚げをし、高価格に支えられ7千万円ほどの売り上げを得ることができました。

これは熊石地域全体の水揚げ額の36%を占めており、熊石地域の主力となるまでに成長したところであります。

八雲町のサーモン海面養殖の取組は、「熊石モデル」としてひやま漁業協同組合管内すべての町に普及し、秋サケの不漁を埋める新たな水産資源として、日本海沿岸漁業の発展に寄与することが期待されているほか、秋サケなど地域の主力魚種の低迷に後押しされ、今後も規模の拡大が見込まれることから、海面養殖を支えるサーモン種苗の安定供給体制の確立を急務とし、種苗生産施設の増設に向けて、実施設計や水利権申請の準備を進めてきたところであります。

種苗生産施設の整備運営にあたっては、公設民営から民設民営へとスキームを変更し、民間活力による持続可能

な種苗生産、供給体制の確立を目指し、計画的にプロジェクトを推進してまいります。

このほか、担い手や後継者の確保、漁業就労環境の改善など、漁業協同組合と緊密に連携するとともに、新たに漁業の担い手や後継者対策として、漁業に必要な各種資格等の取得費用に対する補助制度を整備いたします。

また、漁港内での増養殖事業の推進や漁船の大型化への対応など、漁港機能の強化と効率化を進めるとともに、海や漁村の地域資源の価値や魅力を発揮する海業の取組を推進するため、漁業協同組合とも連携し国や北海道に要請してまいります。

(3) 商工業の振興

近年の物価高騰は、原材料費、燃料費、物流費などのコスト増加により商工業者の経営に影響を与えており、町民生活の基盤を支え、雇用を創出する商工業者は、地域経済をけん引する重要な役割を担っていることから、町内事業者の振興を図るための融資資金の預託と保証料の補給を継続して行つてまいります。

また、「中小企業等設備導入支援事業」を実施し、設備

更新による生産性の向上や起業・創業・事業承継に伴う設備導入に対する支援を行うとともに、事業承継を希望されている事業者が円滑に承継できるよう、商工会と連携を図りながら、後継者対策を進めてまいります。

ウイスキー蒸留所誘致事業については、蒸留所の建設・稼働に向けて事務を進め、八雲町の地域性を活かしたウイスキーのブランド化や、北海道新幹線札幌延伸を見据えた観光資源と雇用の創出に繋げてまいります。

全国的にDX化の取組が進められており、電子マネーや電子ポイントで買い物が可能となっていることから、こうした時代の変化に対応するため、事業者のDX化について関係団体と検討を継続してまいります。

(4) 観光の振興

北海道新幹線新八雲(仮称)駅開業を見据え、観光の拠点となっている噴火湾パノラマパークおよび情報交流物産館丘の駅への交流人口のさらなる増加と町内経済への効果波及を図る必要があり、「食」「物産」「歴史・文化」など地域資源を活用した観光